

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

適時性について

どんなことをする場合にも、丁度いい時というのがあります。この丁度いい時のことを適時性といいます。例えば桜の花は春に咲きますね。つまり、桜の花にとって花を咲かせるには春が最もいい時なのです。桜の花を秋や冬に咲かせることはできないし、何とかして咲かせることができたとしても春に咲くようにきれいには咲かないでしょう。

同じように我々、人間にとっても効果という点では適時性があると言えます。例えば、宮大工という神社等を建築する職業がありますが、技術を身に付けるには高校卒業後では遅いと言われる。しかし、生涯学習という言葉の通り、生きている限り勉強だと言われる中、考え方を見直すことが必要です。何といっても人間の場合には「意欲」というものがあるのです。勉強しようと思った時が勉強するのに相応しい時期なのです。勉強しようとして高校に進学をした皆さんにとっても勉強をするために今が最もいい時期だと言えるでしょう。今を逃しては、チャンスは遠のいてしまいます。

ちょっと古いけど「いつやるの?」「今でしょ!」。ぜひ、高校での学習を充実させてください。

全ての学年で授業がスタートしました。物事をやり始めるのには準備が必要です。100m走を想像してみてください。スターターが「位置について」と言った後で「ヨーイ」と声を掛けます。当たり前のようですが、これはとても大事なことです。いきなり「ドン」では、0.01秒を競う100m走ではタイムロスが生じます。ピストルが鳴る瞬間に最大の瞬発力を発揮するには準備が必要です。他のケースも同じ。ジャンプするためには膝を折って腰をかかめる動作が必要ですし、ボールを投げたり、打ったりするには腕のテイクバックをしなければなりません。あることをしようと思ったら、そのための準備動作が必ず必要になるのです。この準備を怠るとよいスタートが切れません。勉強も一緒、日々の授業はもとより、家庭学習等においてもスタート準備を心掛けてみてください。

休み時間に4階から2階へと足を運びました。廊下で「次の授業は何?」との問いに、「次は英語」「次は〇〇先生」との回答。これも切り替え、準備の証でしょう。



コミュニケーションを大切に!!

先週12日(金)「おはようカウンター」が「600」(全校生徒数の8割)の大台に達しました。翌日は「550」。朝、皆さんと挨拶を交わすのが楽しみです。

挨拶が他者とのコミュニケーションを円滑にし、友好的な雰囲気を作り出すことは言うまでもありません。玄関での挨拶や、教室に入った際の「おはよう」の声掛けを実践してください。

『凡事徹底』、今年も皆さんに言い続けます。
当たり前のことを当たり前にやりとげよう!!



この記事の入稿直前、4/15(月)に「632」を記録しました。